

特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会

2009年度 事業報告書

ANNUAL REPORT 2009



2009年度 バングラデシュ・スタディーツアーにて

今まで送った車いすの数は 1859 台です



ご挨拶

2009年度の事業報告書が完成いたしましたのでお届けいたします。当事業報告書は、2008年度より作成を開始いたしました。2008年度は助成金をいただきましたので比較的立派な報告書でした。今回の報告書は前回と見栄えは異なりますが、報告される内容は昨年度に引き続き充実したものになりました。

2009年度、会の活動において表向きは大きな変化はありませんでしたが、会の運営におきましては、理事会の規模を縮小し新たに運営会議を毎月行うこととしました。これにより実務的な話し合いが定期的に行われるようになりました。具体的な話し合いが毎月行われることで車いすの引き取りや整備、コーディネーターと各部門の連携がスムーズになってきました。まだまだ改善すべき点は多いものの、今後も「顔の見える交流」をより発展させられるようにがんばっていきたいと思います。

2009年度の報告には入りませんが、その後認定NPO法人の取得をいたしましたことも申し添えます。

今後も発展的な活動を続けられるよう、皆様方の引き続きのご協力を宜しくお願い申し上げます。

代表理事

柳生 一自



～「飛んでけ」沿革～

1998年	「飛んでけ！車いす」の会設立 1台目の車いすがタイへ
1999年	第1回スタディーツアー(フィリピン) その後毎年、スタディーツアー実施
2000年	特定非営利活動法人(NPO)認定
2001年	タイ・ベトナム車いす調査実施
2002年	札幌通運(株)と共に第1回パートナーシップ大賞受賞 アジアの障害者フォーラム実施
2004年	北海道福祉のまちづくり賞奨励賞受賞 ビデオ・DVD「Go! Fly! 「飛んでけ！車いす」」完成 外務省 NGO 相談員事業受託
2005年	1000台目の車いすがペルーに飛ぶ
2006年	車いすの現地整備と技術移転をベトナムで実施 ウズベキスタン・スタディーフォーラムを実施
2007年	日・タイ障がい者フォーラムをタイ・バンコクで実施
2008年	函館、旭川、札幌で「飛んでけ！車いす」の会写真展を開催 10周年記念パーティ開催 北海道新聞より「北のみらい奨励賞」を受賞
2009年	札幌市より「さっぽろ環境賞」循環型社会形成部門「札幌市長賞」受賞 かめのり財団より「かめのり賞」受賞

1. 車いす輸送（国際協力）事業

私たちの活動は、車いすの再利用×顔の見える国際協力です。

1-1 車いすの世界事情

世界保健機構（WHO）の推計によると、世界に6500万人の車いすを必要としている人がいますが、2000万人の人が経済的理由から車いすを手に入れることができません。一方、日本では体型の変化や国の制度が理由で買い換えられ使われなくなった車いすが年間2万台以上あります。私たちは、それらの車いすを整備し、海外で車いすを必要とする方々に贈る活動をしています。

1-2 車いす輸送事業の流れ

車いすはたくさんの人の手を渡りながら整備されて、旅行者の手荷物として海外へと送られます。

① 車いすの提供を受ける

子供用から大人用電動車いすまで、さまざまな車いすを提供して頂いております。そのため、使用者のさまざまなニーズに合わせた車いすを届けることができます。

② 整備

海外では車いすを整備することが困難な場合もあるので、車いすを長く安全に使ってもらうために1台1台新品同様の状態に整備・修理をして海外へ送ります。

③ コーディネート

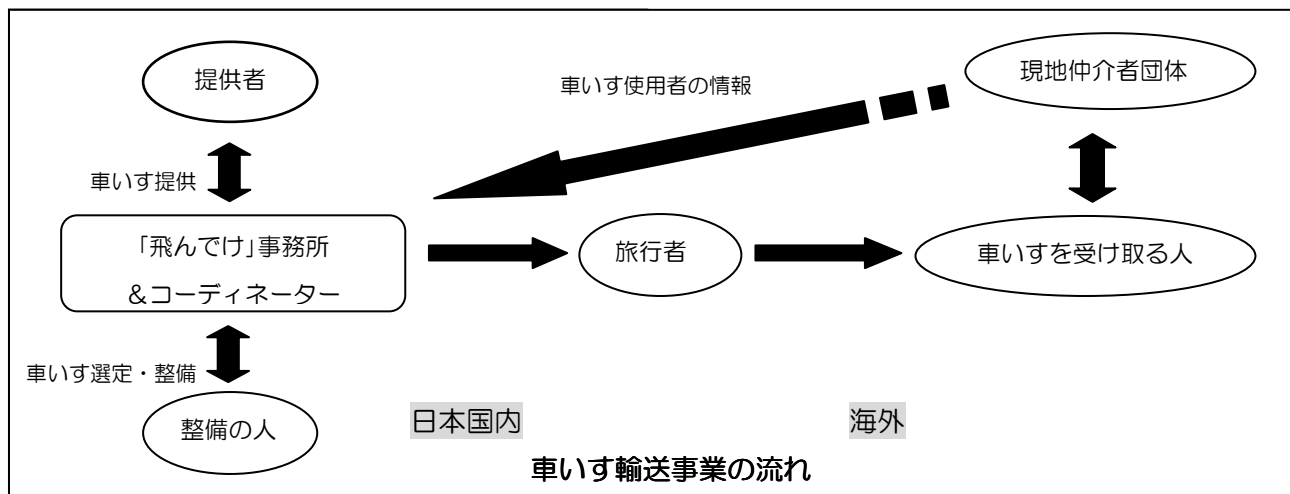
海外の現地仲介者団体と連絡を取り合い、使用者の身長や体重・病名・症状・使用目的などを事前に調べ、使用者の生活や身体に合う車いすを選びます。また、車いすを運んでくれる旅行者の方とも連絡を取り合って、車いすを目的地へ無事に届けられるように調整します。

④ 車いすのお届け

旅行者の手荷物として運んでいただくことで、輸送コストがかなり低くなります。また、旅行者が観光だけでは触れることのできない海外での障がい者の生活に触れることができます。

⑤ 共有

旅行者は車いすを届けた体験を報告してくれます。車いすの輸送事業に関わった人たちで、喜びを共有し、また反省点の確認をして、次につなげていきます。



1 - 3 活動実績

A. 海外へ送り届けた車いすの台数

本年度は、22カ国へ143台の車いすを届けました。このうちの38台は、JICAの「世界の笑顔のために」プログラムの協力を得て途上国に送り届けられました。

B. 提供された車いすの台数

本年度は、福祉団体・病院・老人ホームや個人の皆様から116台の車いすを提供して頂きました。

C. 整備実績

車いすの整備・清掃を週1回・計48回以上行いました。また、企業や学校と共同で「車いすのメンテナンス体験」を実施しました。

D. バングラデシュスタディーツアー

本年度のスタディーツアーは、①仲介者団体との連携の強化②車いすの寄付③過去に届けられた車いすの追跡調査④現地の整備環境（整備者の技術・整備道具）の調査⑤車いすに乗っている方と共に旅をし、介助などを体験することで車いすの生活について理解を深めることを主な目的に行いました。

仲介者団体であるCSID[Centre for Services and Information for Disability]（バングラデシュの障がい者の権利、尊厳、機会を保障するために活動しているNGO）とは日本とバングラデシュの福祉制度について意見交換会などを行いました。また、Sapporo Dental college and hospital（外務省からの資金をもとにスラムにおける口腔衛生向上活動などを行う私立の歯科大学病院）とも交流することができ、この団体とどう連携をとっていくのかも今後の課題の一つとなりました。

さらに過去に届けられた車いすの調査では、車いす受領者の成長による体型の変化に応じ、送り届けた後のフォローも重要であることが分かりました。またスラムでは車いすを手に入れることが困難である一方、障がい者・児が数多く目立ち、車いすの必要性を感じました。整備環境についても、当会の車いす使用（整備）マニュアルを現地語にしたものの作成が必要であると感じ、今後取り組んでいきます。

E. ベトナムにおける車いす使用状況調査

車いすの整備技術移転によって、今後現地の人の手で長期間使用可能にしていくということを目的に、当会で最も多くの車いすを運んだ国ベトナムで、JICA北海道の支援のもとベトナムの①車いすの使用状況②障がい者が置かれている社会的な環境③障がい者に提供されている医療などの調査を行いました。

●ベトナムの車いす事情●

現在のベトナムでは、全般的に車いすそのものを手に入れるのが困難な状況にあり、数も不足しているということがわかりました。一方で、ホーチミンやハノイなどの大都市には海外からの支援が集まりやすいため、1人で2~3台以上の車いすを所有していることも珍しくないようです。また、車いすを使用する一人ひとりの身体や障がいの症状を考慮する「フィッティング」という考えは後ろに追いやられる傾向にあるようです。さらに、ベトナムでは日常的な点検で車いすの問題を発見し、決定的に破損する前に対処するという基本的な管理技術が成熟していないと考えられます。



F. 車いすフィッティング研修会

使用者の生活状況や身体の状態に適合した車いすを選定する知識の向上を目的に、医師、理学療法士、車いすを実際に使用している方、車いす製作会社「アルキミア」さんなどに講師を依頼し、研修会を5回行いました。

日時	講師	研修内容
2009年9月5日	柳生一自（小児科医）、柴田幸一郎（整備ボランティア）	「障がいと車いすについて」 「車いすメンテナンスについて」
2009年9月12日	土井正三、登り口倫子	「車いすでの生活について」
2009年10月10日	理学療法士会より	「身体の構造に合った車いすについて」
2009年12月12日	(有)アルキミア（車いす・福祉用品製作会社）	「身体に合った車いすの製作について」
2009年12月19日	理学療法士会より	「身体に合った車いすの選定について」

(※この事業は、平成21年度日本郵便の年賀寄付金の助成を受けて実施しました。)



第2回研修会の様子



第5回研修会 (有)アルキミアにて (旭川)

各地で広がる活動

「飛んでけ！車いす」の会のOB/OGにより、函館・高知でも当会の車いす輸送事業の仕組みを取り入れ実践しています。

日本では廃棄される車いすが数多くあります。それらの車いすを再利用し必要としている人に届ける活動を広げるために、当会は今後他の地域でも支援・協力していきます。

2. 啓発事業

「飛んでけ！車いす」の会では、講演や車いす整備体験などを通して「国際協力」や「障がい」に対する理解・関心を深めてもらうために様々な啓発活動を行っています。

2-1 講演活動

障がい者の生活や海外の福祉事情を伝えることで、障がい者が直面している問題を様々な視点から伝えています。国内と国外、障がい者の置かれた状況の共通点もいくつかあり、国内の問題は国外の問題でもあり、グローバルな視点で物事を捉えられる人材の育成を目指し、講演しています。講演は、市立札幌大通高校、札幌市立大学、藤女子大学、北海道大学、札幌国際情報高校、帯広ロータリークラブ、たんごの会などで計7回実施しました。

2-2 車いす整備体験

車いす整備を通じて、物を大切に作る心を育て、車いすや国際協力への関心を高める目的で車いす整備体験を実施しました。本年度は有明小学校で行いました。

2-3 主なイベント

学生からお年寄りまで幅広い年齢層の方に、「障がい」や「国際協力」に対して関心を持ってもらう目的で、様々なイベントを行いました。今年度の主な活動としては、国際協力フェスタ 2009、Rising Sun Rock festival、世界を知ろう 2009でのワークショップを行いました。また、地域の活性化や国際交流の場として、余市町でファーマーズコンサートを実施しました。



国際協力フェスタ 2009 にて

3. その他

他団体とのつながりを深め、ネットワークを構築することを目的として、大学（海外の大学も含む）、NPO団体からインターンシップ生の受け入れを行いました。



4. 受賞

さっぽろ環境賞

札幌市内を主たる活動の場とし、環境保全に関する活動に自主的かつ積極的に取り組む個人、企業及び団体を札幌市が表彰しているものです。当会は国内において、車いすの寄贈、整備、運搬に関わる善意のネットワークを構築し、国境を越えた車いすのリユースによる環境保全だけでなく、国際交流や障がい児（者）の自立、ひいては経済的弱者の支援及び生活環境改善に多大な貢献をしていることを評価していただき、「循環型社会形成部門」の「札幌市長賞」を受賞しました。

かめのり賞

財団法人かめのり財団（東京都）が日本とアジア・オセアニアの国際相互理解の増進に草の根で貢献している NPO（非営利団体）、ボランティアグループ及び個人を表彰しているものです。当会は東南アジアを中心とした発展途上国において、障がい者を含めた現地の人々を継続的に自立、発展できるような仕組みを作っていることを高く評価していただきました。



かめのり賞授賞式の様子

～飛んでけ！出版物のご紹介～

「手から手へ 飛んでけ！車いす 1600 台の笑顔」

（10 周年記念出版）

1 台の車いすを届けることで、たくさんの思いがつながり、素敵な笑顔が生まれています。車いすを届けた旅行者の体験談を中心に、活動に関わる人からのあたたかい声がたくさん詰まっている本です。

（A5 版 414 ページ）

価格 1,500 円（在庫あります。お問い合わせは事務局へ）

発行 「飛んでけ！車いす」の会 発売 共同文化社



「飛んでけ！車いす」の会スタディーツアー報告書

当会が毎年実施しているスタディーツアーの報告書です。現地では、車いすを通じた人々とのたくさんの素敵な出会いがありました。2007 年度タイ、2008 年度ベトナム、2009 年度バングラデシュなど各国幅広く取りそろえております。

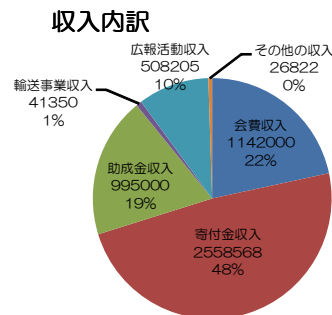
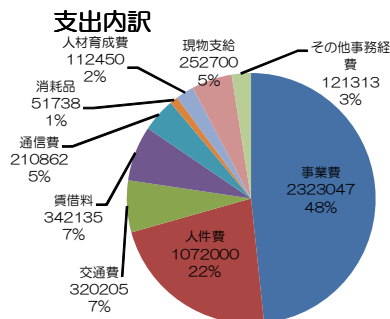
価格 300 円（在庫あります。お問い合わせは事務局へ）

5. 2009年度決算

特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

自 2009年 4月 1日 至 2010年 3月 31日

	科目	金額		
(資金収支の部)				
I 経常収入	会費収入		1,142,000	
	寄付金収入		2,558,568	
	助成金収入		995,000	
	輸送事業収入		41,350	
	広報活動収入		508,205	
	その他の収入		26,822	
	経常収入合計			5,271,945
II 経常支出	1. 事業費			
	車いす輸送事業費	268,722		
	交流事業費	98,060		
	広報事業費	638,680		
	海外事業費	52,154		
	助成金事業費	1,265,431	2,323,047	
	2. 管理費			
	人件費	1,072,000		
	交通費	320,205		
	賃借料	342,135		
	通信費	210,862		
	消耗品	51,738		
	人材育成費	112,450		
	現物支給	252,700		
	その他事務経費	121,313	2,483,403	
	経常支出合計			4,806,450
	経常収支差額			465,495
III その他の収入				
IV その他の支出				
	その他収支差額			0
	当期収支差額			465,495
(正味財産増減の部)				
V 正味財産増加の部	1. 資産増加額			
	当期収支差額			465,495
VI 正味財産減少の部	1. 資産減少額			
	什器備品減価償却費			0
	当期正味財産増加額			465,495
	前期繰越正味財産			2,223,253
	当期正味財産			2,688,748



*2009年度決算について

●当会の「車いすを届ける」という活動の担い手は、車いすの提供・集荷・整備・コーディネート・お届けというすべての場面がほとんどボランティア活動として支えられており、また、札幌通運(株)・福山通運(株)の協力もあり、車いす輸送コストは低額に抑えられています。●事務所賃借料は、札幌通運(株)のご厚意にて低額に抑えられています。

* 「手から手へ」の活動 *

「飛んでけ！車いす」の会は 1998 年 5 月に市民団体として発足し、2000 年 5 月には特定非営利活動法人（NPO）の承認を受けた団体です。当初より協力していただいている、札幌通運(株)本社ビルに事務局を置き、同社の桑園倉庫で車いすの整備・保管を行い、多くのボランティアの方々に支えられて活動し現在に至っております。

日本では、車いすがあまり再利用されていない一方、発展途上国では、戦争、内戦、福祉政策の欠如などから、障がい者・児が車いすを持ち、社会に進出していく基盤がありません。そこで当会では不要となった車いすを集め、整備・清掃をし、海外に行く旅行者や団体の手荷物 20 kg の範囲内で費用をかけずに車いすを持って行ってもらい、アジアをはじめとする発展途上国の個人、団体、病院などの使用者に、直接届ける活動をしています。

1 台の車いすを届けるには、提供者・集荷者・整備者・コーディネーター・空港への配送者・旅行者等を含め約 10 人ほどのボランティアの手が必要です。車いすはその人たちの気持ちと手によって「温められて」届けられます。旅行者は、車いすを直接お渡しすることで、その国の人たちと話ができて、多少の福祉事情も知ることができるため「顔の見える国際交流」としての役割を担っています。また「モノを大切に使う」という再利用の考え方は、持続可能な社会の一助を担っています。

車いすを受け取った方の生活圏が広がり、学校や社会に出ることができたり、家族の介助の負担軽減などに少しでも役に立てたら幸いです。また当会では、スタディーツアーや調査・評価事業などで、届けた車いすの追跡もしています。

当会は会員組織を取っており、会員の方たちが活動に理解を示してくださって、会費・寄付金を頂くことを中心に成り立っています。現在会員は約 500 名で、年 4 回の会報発行、年次総会、勉強会やイベントの実施、スタディーツアーの実施、他 NGO・NPO との連携などを国内で行っています。今後も当会の活動を継続していくために、新しい会員の募集、企業や公共団体との連携も視野に入れております。

「手から手へ」の活動にご協力をお願いいたします。

「飛んでけ！車いす」の会事務局
〒060-0005 札幌市中央区北 5 条西 6 丁目 札幌ビル 2F
Tel&Fax011-242-8171
E-mail : tondeke@bz01.plala.or.jp
URL : <http://tondeke.org/>

